

ワイワイ・レポート

このページはワイワイのメンバーが日ごろ考えていること、つぶやき、感動などをお伝えするページです。



元気をもらう活動

FMいみず「のんびり・ゆったり・ゆるゆるラジオ」(2008年9月9日)に出演し、パーソナリティの伊藤さんとワイワイ代表の亀井が語り合いました。

亀井：・・・子どもの学習支援のクラスもあります。そこで学んだ子どもたちが今度は自分の母国の子どもたちを支援するという循環も始まりました。

伊藤：せっかくゲットしたものは誰かに伝えるという・・・

亀井：私たちは同じ地域に住むもの同士、私たちにはできることは差し出して、向こうの方からも文化の違いとかを教えてください・・・自分たちの価値観とか気持ちが広がるような経験をたくさんするんですね。

伊藤：いいことですね。

亀井：参加は強制ではないんですが、疲れていてもうたいへんだなと思いながら行く時もあるんですね。でもそこで外国の方たちと活動して、ワイワイ話しながら一つのことをやってる間に、何かエネルギーをいただいて・・・

伊藤：元気をもらうんですね。

亀井：あら、来る時より元気になったわあって、帰っていくことはもう何回もありますね。

伊藤：確かにね。週末の土曜日の夜になったら、しんどいなと思う時があって普通ですもんね。続けてこられて、外国の方も頼りにされているのではないのでしょうか。

亀井：日本人・外国人ではなく、お互いに「ワイワイ人」というのでしょうか。信頼関係、絆はしっかりできてきたなって・・・

伊藤さんにうまくリードしていただきながら、ワイワイにある豊かな空気についてお話ししました。

(2008. 9. 23)

日本人と外国人が同じ地域に暮らすことの意味

これは、射水市のブラジル日本100周年のイベントに参加した際、出番を待つ間参加したサポーターみんなが感じたこと、まるでブラジルにいるようだったと。回りはみなブラジル人(他の国の人もいましたが)、集まってみればかなりのブラジル人が生活して、コミュニティを既に作っている。

ある人から、日系ブラジル人の子供の就学状態を尋ねられたことから以前日本語支援していたブラジル人Kさんに電話をしました。私が関わっていたころ生まれた子供が現在小3年生。日本の保育園から小学校、公文教室にも通い、日本語は不自由していません。ひとしきり、その子と学校の話をした後、Kさんと代わりました。

話をしてみて、ちょっとびっくり。それは日本語がかなり退化(こういう言い方がいいのかどうか)していて、あれ、こんな話し方していなかったのに・・・。後から思うに、子供の日本語が上達するにつれ、自分が頑張って日本語を話さなくてもよくなったからでは？

日本語を覚えて、周りとのコミュニケーションをとらなければと真剣に思う時期がある。しかしそれを過ぎてしまうと、また周りに日系ブラジル人が増えてくれば、そんなに日本語を必要としなくなる、日本語がなくても生活できるようになってくるのでは？

射水市、富山県も時間が経過するにつれ、日本人、外国人のそれぞれのコミュニティができて、多文化共生といいつつも、相互に関係し合わない地域ができていくのではないかと心配になりました。このままいくと、地域の中にそれぞれ分離したコミュニティができるばかり。そういう現状にあって、手を伸ばし声をかけて、理解と共生の道を探るのは受け入れ側の日本人からではないだろうか。入ってくるほうは、自分たちのことだけで精いっぱいだろうし、身近なブラジル人を頼りに生活するのは自然な流れだと思うから。

(2008. 9. 23)